

# 学校法人きのくに子どもの村学園

## 南アルプス子どもの村小学校

---

発表者氏名 加藤 博

### 発表内容(概要)

#### ・プロジェクトが学園の存在理由

教育の本来の目的は、自由な子どもへの成長を支援することです。自由な子どもとは、感情的に解放され、自分で考える態度を持ち、共同生活の中で民主的な行動のすべを学ぶ子どもです。私たちは、この「自由な子ども」が育つ環境を準備する上で、以下の3つの方針を大切にしています。

1. 大人がすべてを決める学校から、子どもたちが選んだり決めたりする学校へ。
2. 同じ年齢の子どもに同じことを同じペースで教える学校から、個人差や個性を尊重する学校へ。
3. 教科書の記憶が中心の学校から、具体的な仕事に取り組んでさまざまな力を身につける学校へ。

この3つの基本方針を統合して、徹底的に貫いていこうとしてできたのが「プロジェクト」という形態です。子どもたちは、知的に興奮しながら、自分たちの好奇心を刺激する問題や活動に取り組みます。そして自分の頭と手と体を存分につかって、みずからの生活を豊かにする喜びと、成長する実感と、その過程での学ぶ楽しさと、仲間とふれあう喜びを存分に味わいます。

当日は、当小学校の「おいしいものをつくる会」の小麦の収穫から喫茶店が開店するまでを紹介させていただきました

#### ・質問内容とそのやりとり(概要)

会場のみなさんからは「子どもたちが活動を選ぶ」という点に興味・関心があったように感じました。

子どもと大人の話し合いで、「ホンモノの仕事」を子どもたちがしていくように環境を整えていくといったお話をさせていただきました。

# NPO法人 箕面こどもの森学園

---

発表者氏名 藤田 美保

## 発表内容(概要)

箕面こどもの森学園は、大阪にあるフレネ教育やイエナプラン教育をベースとした小学校です。市民の手で立ち上げ、運営し、10年になります。今回は、箕面こどもの森学園の取り組みについて、パワーポイントで発表しました。(20分ほど)日ごろの活動のスライドなどを、みなさんに関心をもって見ていただくことができました。

その後、人を知り対話を育むきっかけになる「インディアンシャベリカ」というワークショップをしました。カードにお題をかいていただき、そのカードを裏向けてシャッフル。一人の人が引いたカードのお題を見ないでインディアンのおでこに当てる。それ以外の方が、カードの内容について話、自分のおでこのカードのお題を当てるというものです。15名ぐらいの方が参加してくださいました。

隕石を見た話や、家族とおいしいものを食べて過ごす話など、いろんな話がでて盛り上がりました。みなさん、ゲーム感覚でご自分について話すことができ、参加していただいた方の意外な一面を知ることもできました。「おもしろかったので、取り入れてみたい」「学校に見学に行きたい」というお声もいただきました。

団体HP <http://homepage3.nifty.com/kodomono-mori/>

# のむぎオープンコミュニティスクール

---

発表者 のむぎ代表 樋口義博

## 発表内容(概要)

まず、のむぎOCSは、「地域の新しい教育力と文化の創造」の一翼をになうセンターを母体として1991年に開校されたこと。そして、特別に校舎や校庭を持たない、“旅”を柱に地域を学びの場とする学校であることを報告しました。

若者たちは、横浜から長野までの300キロ徒歩の旅(平和行脚)・ヒロシマピーストリップ・オキナワピースポートトリップ・自由民権運動を訪ねる旅・アメリカ留学体験の旅・平和のバラに出会う旅、等の“旅”を柱にした平和学習を行ない、その中で一人ひとりが大きく育ってきたこと。そして、それらの学習を通して「平和太鼓」をつくり、「平和のバラ」に出会い、“平和太鼓で平和を訴え、平和のバラで平和の輪を広げよう”のスローガンのもと、学習と実践の統一としての平和活動を行なうにいったこと。「旅の教育力」がいかに若者たちを育てるかについて、報告し、最後に「のむぎ平和太鼓コンサート」の冒頭部分のDVDを参加者に観てもらいました。

## 質問内容とそのやりとり

時間が無かったため質問等のやりとりはできませんでしたが、全体会でのシンポジウムや報告後残った方の感想(評価)として、次の3点を上げた方がおりました。

### ①教育目標をしっかりと持っていること。

「学ぶことによって『生きる力』を身につけ、生きる方向を見つける手助けをする」

- ・『生きる力』とは…平和を愛し、自由と民主主義を重んじ、自らが「変革主体」となること
- ・『変革主体』とは…真の平和と民主主義の世の中をつくるために生きようとする(他人に生かしてもらうのではなく、自分の手で未来を切り拓こうとすること)

### ②“旅”を柱にし、その中でも平和学習を大切にしていること。

今の若者たちにとって、大変価値のある試みである。

### ③ミーティングを大事にしていること。

「生きる力」を身につけるのに大切な学びの方法である。

# フリースクール ForLife

---

発表者氏名 中林和子

発表内容(概要)

「子どもがつくる・子どもとつくる」をスローガンに

生活者の視点で、体験活動と文化・人との出会いを大事にしているフリースクールの、子どもから出発する体験活動を中心に紹介。民家を借りて、家庭的な雰囲気の中での活動は、設立 16 年を経て地域にしっかり根差したものとなっている。ミーティングから始まる日々のプログラムは午前中が学習タイム、午後からはアクティビティという大枠がある。

【体験活動】は、子どもの何気ない一言で始まることが多く、その 2 例を紹介。

①TV 番組をヒントに廃屋(温室)を改築し、野外活動宿泊施設をつくった経緯と費用、意義・成果について。

②沖縄出身のアーティストに「会いに行きたい！」との一言で、15泊16日の沖縄自転車旅行が実現。活動にあたっての準備や参加できなかったメンバーも保護者も一家総動員で協力し応援をした経緯と成果について。

また、ForLife の特徴でもある【地域交流活動】については「区民体育の日」「ボランティア祭り」「水環境フェア」「お餅つき大会」などの地域イベントで、子どもたちがボランティアとして活動している様子を紹介。

また、発達障がいを持つ子どもたちの「バリアフリーマップづくり」を紹介し、子どもたちが活動を通して、地域の中でどのように主体的に生活していくかを考察した。

このように、ForLife の「体験活動は」は、地域の中であって子どもたちの「自信」を回復し「自己肯定感」を養う持続可能な教育活動になっている。

# 自由の森学園中学校・高等学校

---

発表者氏名 菅間正道、猩々紘怜

発表内容<概要>

自由の森学園は教室が「深く学ぶ場」になることを目指して実践を重ねてきました。そのためには物事をただ覚えることよりも、考えることが重要です。短い時間ではありましたが、参加者にちょっとした授業の様子を体験してもらうためにミニ授業を行いました。

まず参加者に配られたのは、英数字が刻まれたペンダントのようなものが印刷された1枚のプリントです。授業者の菅間は次々と参加者に質問を投げかけます。「どんな文字が刻まれているでしょうか?」「絵を見て、あれ?おかしいなと気になる点はありますか?」

ペンダントが日本の自衛隊員の身に着ける“ドッグタグ”だと分かったところで、机の上に大きさの違う弾薬が3つ置かれました。「南スーダンで平和維持活動中の韓国軍に自衛隊から貸与された銃弾はこのうちどれでしょう?」正解は最も大きい4.5センチの弾薬でした。最後に菅間は「この弾薬は自衛隊が平和維持活動の際に携帯を許可されているものです。この弾薬を持つての海外派遣は憲法9条に違反しているのでしょうか?違反していないのでしょうか?」と問いかけます。本来はこのあと議論が展開されるのですが、時間の都合でミニ授業はここまででした。

後半はパワーポイントを使い学校紹介をしました。「深く学ぶ場」を実現するために、自由の森学園高等学校では必修授業だけでなく、様々な分野の選択授業が開設されています。サンバ・オペラ・演劇などの芸術系から政治経済・文学批評・スタディアブロードなどの人文社会系、微分積分や物理といった理数系まで生徒自身の関心に沿ってカリキュラムを組むことができます。飯能という自然豊かな地域を活かし、コメ作りや林業講座といった自然体験も充実している様子が紹介されました。

最後に自由の森学園が実践してきた「評価表」について、説明を行いました。本校では中間・期末テスト期間の代わりに、学習のまとめ期間を設けています。この1週間は各教科の半年間のまとめと自己評価を文章で綴る期間です。半年ごとにまとめられた「評価表」は、各担当教員のコメントが書き加えられファイルに整理されていきます。

時間の都合上、質問を受け付けることが出来ませんでしたが多数の方に参加していただきました。